

くらがり溪谷自然観察会

あっ…千振！ (セブリ)

2024年10月
蕾でした

発行	2024-006
開催日	10/13(日)
開催時間	9:00~15:00
天候	晴れ
参加	26名(指導員含)
主催	西三河自然観察会
担当	馬場、武田、石黒



写真左上から(科名省略しました) : ホトギス、チチミササ、ススカアサミ、ノコンキク、セキヤノアキチョウジ、イヌコウジュ、アケボノユスラン、ウチワダイヤモンドソウ、ミスヒキとハナタテ、クサアジサイ その他観察できたもの : セイタカアワダチソウ、ハシカグサ、オニルリソウ、アキノタムラソウ、マツカゼソウ、ユクノキ実、アブラチャン実、スルガテンナンショウ実 野鳥他 : カワガラス、アサギマダラ、ジムグリ



キノコさんの 小部屋(Mushroom) フクロキクラゲ

情報の少ないきのこです。食毒の有無や生態など詳しくは分かりません。ジュズタンシキン属であり間かないものです。ただ、珍しくはなく、くらがり溪谷の暖温帯や段戸裏谷のブナ帯でも見られます。広葉樹の倒木に生え、他のきのここと共生しているようです。よく見ると袋状で名の由来かもしれません。茶色が成菌(大人)で、薄い黄色が幼菌(子供)の様です(多分)。ところで今日の観察会に6名の子供さんが参加してくれました。各々、きのこやら小動物や植物をたくさん探してくれました。「なんでも知りたい・エネルギー」に圧倒され、課題の解明を進めるパワーを感じました。この子らの行動力に期待し、不明種のきのこも一部掲載しました。よろしくお願ひします。(キノコの写真は馬場さん提供)



写真左上から : (科名省略しました) フクロキクラゲ、ハタケシメジ、カバイロオホウライタケ、チシオタケ、アオゾメタケ、オシロイタケ、カワウソタケ、ミタケ、マスタケ、カエンタケ、キツネノカラクサ(属不明種)、イッポンシメジタケ(属不明種)

他に見られたきのこ : ウスヒラタケ、シュイロガサ、ヒナヒガサ、コノハシメジ、ニオイカレバ、ドクカレバタケ(仮称)、ヒカゲオチエダタケ、マダラホウライタケ、クイロムクエタケ、ナラタケ、ムササビタケ、センボンイチモクガサ、ニガクリタケ、キイホカサタケ、ニガイグチモトキ、コチャダイゴケ、エリマキツチグリ、モミジウロコタケ、チャウロタケ、ツヤウチワタケ、エビウラタケ、カイガラタケ、ニクウスバタケ、ハカワラタケ、シクイタケ、カワラタケ、キヌハダタケモトキ、ネンドタケ、ダイダイタケ、オオミノコフキタケ、ホウロクタケ、マゴジャクシ、レンガタケ、ツノノリタケ、クロラッパタケ、ベニチャワンタケモトキ、ニセキンカクアハビョウタケ、モエキビョウタケ、チャコバタケ、カメムシタケ、ハナサナギタケ

概況 : 青空の広がる秋らしい天気となり多くの来訪者がある。観察会へも3グループのお子さん連れの参加があり子供達の声で賑やかな観察会となった。夏の猛暑の影響か今月も花期にずれが見られる。ようやくホトギスが盛りを迎えた様で多くの花に出会えたが葉を枯らしたり食べられたり痛々しい姿のものが多い。例年であればウチワダイヤモンドソウの見頃のはずだが蕾は未だ固い。今日のテーマ「あっ…千振！」セブリは千回振りだし(煎じると同意)でも苦いという胃腸に効く生薬の一つである。胃腸薬の成分を確認するとゲンチアナと表記されている物が苦い成分でリンドウ科(Gentianaceae)が使われている事が確認できる。こちらも蕾は固いようでもう少し先の様子であるが葉を見るとつい齧りたくなってしまうのが毎度の事である。他のリンドウの仲間とは探すがアケボノソウもツルリンドウも見られない。キクの仲間も数が少なく、一月遅くれの「あっ…杜鵑」といった観察会となった。



ホトギス(杜鵑)

次回開催 : 11月10日 (日)
テーマ : あっ…白熊! (ハグマ)

深まる秋を楽しもう くらがり溪谷で
お待ちしております。